

完了報告書

記入年月日 2026年 3月 30日

採択団体名 宮城県東松島市立矢本東小学校学校運営協議会

■事業概要

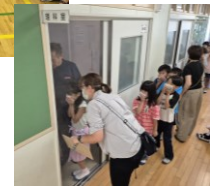
基本情報	
事業名	東松島市立矢本東小学校区における地域と学校の防災教育推進事業
事業内容	事業内容①:地域と連携した避難訓練・安全点検 事業内容②:地域の施設・人材を生かした防災教育 事業内容③:地域に根差した防災教育の活動を記録した防災教本の作成 事業内容④:本協議会の防災教育の活動を外部へ発信
事業背景	本地域は東日本大震災において、発災直後の公助が機能しない初期段階での自助と共助の重要性を再認識するとともに、平時の地域の核でもある学校を起点とした地域防災の拡充が、子どもたちを含む地域住民の生命を永続的に守ることにつながることを体験的に学んだ。このことから、社会の核家族化や人間関係の希薄化が進む中で、学校が地域を結びつける拠点としての役割を担い、住民と共に防災力を底上げすることが期待されていることを強く認識した。多くの学校が指定避難所であることから、平時からの地域との連携体制の構築は不可欠である。学習指導要領などでもその重要性が明記されているが、これらのことから本事業が、学校と地域が連携して「地域全体で子どもの命を守る」体制を強化するための極めて重要な取組であることが追認されるものである。
コミュニティ設立の経緯	東松島市では、市内全ての小中学校に学校運営協議会が設置され、地域と学校が連携して協働での教育活動を展開している。そのような中、本校では特に防災教育での連携を焦点化し、児童生徒及び地域住民の防災意識の向上に向けて様々な取組を展開している。
本事業に関する過去の取り組み内容	事業内容①:地域と連携した避難訓練・安全点検 学校運営協議会、PTA等、地域人材を生かして避難訓練や安全点検を実施している。 事業内容②:地域の施設・人材を生かした防災教育の展開 石巻災害復興伝承館門脇小学校、東松島市災害復興伝承館などの施設及び人材・地域素材を活用した防災教育を数年前から実施している。また、地域の組織や企業などと連携しての防災に特化した学習参観日を開催している。
事業体制	・学校運営協議会:事業内容①の避難訓練及び安全点検の協力 10名弱 ・学校職員:事業内容②の総合的な学習の時間の企画 10名弱 ・民間企業及び大学:事業内容③の防災教本の作成協力 4名 ・高知県香南市教育委員会:本協議会の取組を香南市へ発信するための協力 4名
全体スケジュール	9月上旬 学校運営協議会(第2回)の開催 9月上旬【事業①】火災想定避難訓練(学校運営協議会と共同実施) 9月中旬【事業②】石巻震災遺構門脇小学校の見学 10月中旬 高知県香南市での防災教育講演会の実施【講師:矢本東小校長 村岡 太】 10月中旬 市職員との防災会議の実施 11月中旬 学校運営協議会(第3回)の開催 11月下旬 集団下校訓練(通学路の安全点検)の実施 11月下旬 民間業者を交えての防災教育教本の作成打ち合わせ 12月上旬 防災教育研修会の実施【講師:宮城教育大学講師 林田 由那氏】 12月上旬 台湾雲林県教育視察団対応 1月下旬 高知県香南市へ防災教育支援 2月上旬 福島県双葉町、いわき市へ防災教育視察 2月中旬 防災学習参観日・講演会の実施【講師:明海大学教授 戸田 芳雄氏】 3月上旬 大阪府池田市へ防災教育視察 3月11日 みやぎ鎮魂の日(祈りと誓いの集い) 防災教育研修会の実施【講師:東北大学教授 佐藤 健氏】 岐阜県立各務原市立蘇原第二小学校との交流会の実施 3月中旬 事業の振り返りを実施し、成果報告書を作成 3月中旬 学校運営協議会(第4回)を開催。年間の活動の振り返りや来年度の実施予定について検討。 各月上旬【事業①】学校運営協議会などが主体となって地域による学区内安全点検を実施

事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<p>① 地域と連携した避難訓練・安全点検 地域と連携した避難訓練・安全点検を年間で3回以上実施し、学校や地域の安全体制を強化する。</p> <p>② 地域の施設・人材を生かした防災教育 総合的な学習の時間を中心に地域の施設・地域素材・人材を活用したより実効的な防災教育を展開する。年間を通して、東北大学、宮城教育大学等の支援を賜りながら、高質な連携を模索していく。</p> <p>③ 地域に根差した防災教育の活動を記録した防災教本の作成 東日本大震災を教訓とし、矢本東地区住民の生命を、住民自身が相互に力を合わせて守り抜くことをテーマとした防災読本「ひがしの道標」を作成し、地域の防災意識の高揚に向けて地域住民や関係機関等に配布する。</p> <p>④ 本協議会の防災教育の活動を外部へ発信 南海トラフによる被害が予想される高知県に赴き、東日本大震災を経験した立場から、現地の小中学校の避難訓練等を検証し、指導助言を行う。また、阪神淡路大震災で大きな被害を被った地域の復興状況等に触れる研修機会を設け、今後の発信の仕方等について学ぶ。</p>
事業成果全般 (教育提供者)	<p>① 地域と連携した避難訓練・安全点検 教職員と地域住民と一緒に避難訓練や安全点検を定期的に、年間3回以上実施することにより、地域の未来を担う子ども達を基軸とした進化する地域防災が形づくられる。</p> <p>② 地域の施設・人材を生かした防災教育 地域人材や施設を活用した教育活動を展開することで、学校と地域の連携体制を強化し、創意あふれる防災教育のノウハウや人材ネットワークを構築することができる。</p> <p>③ 地域に根差した防災教育の活動を記録した防災教本の作成 教本作成のテーマを「住民自身が相互に力を合わせて守り抜くこと」に設定し、本協議会や地域の取組などを掲載予定。本事業の内容を広く発信させる。</p> <p>④ 本協議会の防災教育の活動を外部へ発信 東日本大震災の経験を発信することにより、自分自身の経験を振り返り、今後の防災教育の展開に役立てることができる。</p>
事業目標全般 (参加者側)	<p>① 地域と連携した避難訓練・安全点検 教職員と地域住民と一緒に避難訓練や安全点検を定期的に、年間3回以上実施することにより、CSをはじめとした地域住民や児童が災害を他人事ではなく「自分事」として捉え、防災意識の向上及び行動の変容が期待される。</p> <p>② 地域の施設・人材を生かした防災教育 6年生の総合学習において年間2回、大学と連携した学習を1回実施することで、学校の座学だけでない幅広い知識を得たり、防災意識を向上させたりする。</p> <p>③ 地域に根差した防災教育の活動を記録した防災教本の作成 「住民自身が相互に力を合わせて守り抜くこと」をテーマに防災教本をPTA全戸、地域の施設などに配布し、地域の防災意識の向上を図る。</p> <p>④ 本協議会の防災教育の活動を外部へ発信 1月と2月に四国と関西へ教育視察を実施し、東日本大震災を経験した教員・地域人材という立場から、現地の小中学校の避難訓練などを視察し、指導助言を行う。それにより、現地の児童生徒や教員の防災意識の向上を図る。</p>
事業成果全般 (参加者側)	<p>① 地域と連携した避難訓練・安全点検 地域と連携した避難訓練。安全点検を年間で3回以上実施し、学校や地域の安全体制を強化する。</p> <p>② 地域の施設・人材を生かした防災教育 東日本大震災を経験していない児童がコーディネーターの案内の下、実際の被災地を見学したり、地域人材からの多様な防災教育を受けたりすることで、震災を自分事として捉え、未来に向けて情報を発信できる力を身に付けられる。</p> <p>③ 地域に根差した防災教育の活動を記録した防災教本の作成 「住民自身が相互に力を合わせて守り抜くこと」をテーマに防災教本をPTA全戸、地域の施設などに配布し、地域住民や児童の防災意識の向上が期待される。</p> <p>④ 本協議会の防災教育の活動を外部へ発信 東日本大震災を経験した教員・地域人材という立場から、現地の小中学校の避難訓練などを視察し、指導助言を行う。それにより、南海トラフ地震を想定した避難訓練が展開されるなど、地域の防災教育の高質化につながる。</p>

<p>展開できる 知見やノウハウ</p>	<p>① 学校と地域がどのように連携し、防災教育の取り組みを進めていけばよいかを、事例を含めて具体的に示すことができる。 ② 東日本大震災を経験した立場から、教員としての避難行動、地域の動きや学校との連携など、有事の際の動きを示すことができる。 ③ 防災に特化した学習参観日などを考えている学校に対して具体例を示すことができる。</p>
<p>コミュニティ防災 教育の重要な観 点</p>	<p>地域と学校が協働する防災教育では、地域特有のリスクを反映させた実践的なプログラムを構築し、児童・生徒を災害から「守られる側」から「地域防災の担い手」へと育成していきたい。また、学校単体で進めるのではなく、地域と積極的につながり、地域の施設や人材を生かした防災教育を展開していくといった視線が重要である。</p>
<p>残課題等</p>	<p>本事業を通じて、改めて地域との連携を強く意識し、具体策を講じたが、予想以上に防災に係る「地域力」の低さある種の不安を覚えた。東日本大震災から15年が経過し、震災経験の風化が叫ばれて久しいが、近い将来に地域の担い手となる子どもたちの「命」を真ん中に置いた防災を優先できないでいる。学校や学校運営協議会が基軸となって地域防災の強化・充実を推し進めるには、土壌改良に向けた時間がもう少し必要であると考えます。</p>

■事業内容

事業内容① 地域と連携した避難訓練・安全点検	
事業内容①目標 (提供者側)	地域と連携した避難訓練・安全点検を年間で3回以上実施し、学校や地域の安全体制を強化する。
事業内容①目標 (参加者側)	教職員と地域住民と一緒に避難訓練や安全点検を定期的に、年間3回以上実施することにより、CSをはじめとした地域住民や児童が災害を他人事ではなく「自分事」として捉え、防災意識の向上及び行動の変容が期待される。
事業内容① 実施内容 (実施日:5/28) (実施日:9/5) (実施日:11/11)	<p>■具体的な取り組み内容 地域の消防署と連携した火災想定訓練、地域合同での地震・津波想定避難訓練を実施。さらに、避難の様子をCSの方々に点検してもらい、情報交換・反省会を行った。</p> <p>■成果(参加者) 地域の人材である消防署員の方々から、火災の際の避難行動について指導をいただくことにより、より質の高い避難訓練が展開された。津波想定避難訓練では、避難経路や場所などについてCSの方々と情報交換会を行い、計画やマニュアルの改良・修正に役立った。</p>
事業内容① 実施内容B (実施日:5/28) (実施日:9/5) (実施日:11/26)	<p>■具体的な取り組み内容 学校職員で実施している校内・地区内安全点検をCSやPTAの協力のもと実施した。</p> <p>■成果(参加者) 学校の教職員でない視線から安全点検を実施したことで、見落としがちな学校・地域の危険箇所などが確認され、安全性が高まった。</p>
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 特になし</p> <p>■乗り越えた方法 特になし</p>
事業内容①を実施する上で工夫した点	地域の方々に安全点検を実施してもらう際には、目標やねらいをしっかりと共有することが重要である。事業①ではCS担当の教員が丁寧に話し合いを重ねることで、確実に共有することができた。
事業内容① 残課題等	<p>【中間報告時点での残タスク】 3月中旬にCS全体で今年度の反省を行う。その中で成果や課題を明確にし、来年度以降の計画に反映させる。</p> <p>【明らかになった課題】 地域の方々が避難訓練・安全点検に積極的に関わっていくことは地域にとっても学校にとって非常に有益だが、その人材の不足・固定化が懸念される。この活動を継続的にしていくための工夫が必要。</p>



事業内容② 地域の施設・人材を生かした防災教育		
事業内容②目標 (提供者側)	総合的な学習の時間を中心に地域の施設・地域素材・人材を活用したより実効的な防災教育を展開する。年間を通して、東北大学、宮城教育大学等の支援を賜りながら、高質な連携を模索していく。	
事業内容②目標 (参加者側)	6年生の総合学習において年間2回、大学と連携した学習を1回実施することで、学校の座学だけでない幅広い知識を得たり、防災意識を向上させたりする。	
事業内容② 実施内容 A (実施日:9/25)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>石巻災害復興伝承館門脇小学校、東松島市災害復興伝承館などの施設及び人材・地域素材を活用した防災教育を実施した。地域住民による震災ガイドによる解説も行った。</p> <p>■成果(参加者)</p> <p>教科書や映像だけでなく本物の震災以降を見たり触れたりすることで、児童にとって東日本大震災が他人事としてではなく、自分たちが住む地域で実際に起こったことであるということが強く再認識された。</p>	
事業内容② 実施内容 B (実施日:12/10)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>宮城教育大学講師・学生による防災授業の実施及び地域住民に向けた防災ワークショップの実施。</p> <p>■成果(参加者)</p> <p>学校が避難所になった際には、様々な困り感を持っている人達がいることを意識し、児童たちは「自分達には何が出来るか?」という視線で多くの学びを得ることができた。また、防災ワークショップでは、保護者、児童、地域の方々と一緒に、簡単に作れる防災クッキングについて学んだ。</p>	
事業内容② 実施内容 C (実施日:2/20)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>地域人材・施設を活用した家族防災参観の実施</p> <p>■予想される成果(参加者)</p> <p>本校では家庭と連携した防災教育が大きな課題の一つとなっていることを鑑み、地域人材を活用した防災学習参観を実施し、親子と一緒に防災を学ぶことで児童や保護者及び地域の防災意識の向上、学校と家庭の防災意識の共有が図られることが期待される。</p>	
事業内容② 実施内容 D (実施日:1/26)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>地域の自治会長への Ipad 配付</p> <p>■予想される成果(参加者)</p> <p>地域住民の防災意識を高めるために、本事業で行う防災教育研修会や防災講演会に地域住民に積極的に参加できるようにする。iPad を地域の自治会や自主防災組織に配布し、対面での参加が難しい方々のためにオンラインでも参加できるようにする。本協議会の考え方や思いをより地域と共有し、新しい形の未来型防災教育を推進していくことができるようになる。</p>	

<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 大学との連携や連絡調整を教員が行うのは非常に負担が大きかった。 Ipad のアカウント設定作業や地域住民への使い方説明など、本事業をスタートするまでの準備作業が煩雑になり、複雑な操作方法を伴う活動の実施は難しかった。</p> <p>■乗り越えた方法 管理職や地域との協力による事務作業の分担などを行った。説明書を配付したり、説明会を行ったりすることで地域住民への理解を深めた。</p>
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>① 地域の人材や施設を積極的に活用することで、自然災害が自分たちの地域で「実際に起こったこと」として認識を深めさせるようにした。</p> <p>② 宮城教育大学の学生を事業に参加させることで、児童の防災教育だけでなく、未来の教員育成も兼ねられるようにした。</p> <p>③ 児童だけでなく、家庭を巻き込んだ学習参観にすることで、学校と家庭、地域の連携をより強固なものにしようと努めた。</p>
<p>事業内容② 残課題等</p>	<p>2月に防災学習参観日を実施予定。地域の協力者たちとの連絡調整を行っていく。</p>

事業内容③ 地域に根差した防災教育の活動を記録した防災教本の作成		
事業内容③目標 (提供者側)	東日本大震災を教訓とし、矢本東地区住民の生命を、住民自身が相互に力を合わせて守り抜くことをテーマとした防災読本「ひがしの道標」を作成し、地域の防災意識の高揚に向けて地域住民や関係機関等に配布する。	
事業内容③目標 (参加者側)	「住民自身が相互に力を合わせて守り抜くこと」をテーマに防災教本を PTA 全戸、地域の施設などに配布し、地域の防災意識の向上を図る。	
事業内容③ 実施内容 A (実施日:11/26)	<p>■具体的な取り組み内容 教本の大まかな骨子について、学校・地域・業者の三者で打ち合わせを行った。</p> <p>■成果(提供者) 年度内に学校保護者、地域住民への配布に向けて、理念やねらいを共有し、今後の見通しを立てることができた。</p>	
事業内容③ 実施内容 A (実施日:1/9, 20、21)	<p>■具体的な取り組み内容 教本の内容について、学校・地域・業者の三者で打ち合わせを行った。</p>	
事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 業者、市、地域、学校との連携を図りながら進めたが、日程の調整や進捗の確認などが難しい場面があった。</p> <p>■乗り越えた方法 管理職や地域との協力による事務作業の分担などを行った。</p>	
事業内容③を実施する上で工夫した点	<p>① 地域と業者、学校が連携して話し合い、教本の作成を進めることで、多様な視点から教本を作成することができるようにした。</p> <p>② 市で保管している資料を活用することで、より地域に密着した内容になるとともに、編成作業の負担軽減を図った。</p> <p>③ 地域の生の声を拾い、住民の興味関心を高める工夫を行った。</p>	
事業内容② 残課題等	年度内配付に向け、打ち合わせなどを行い、作成を進めていく。	

事業内容④ 本協議会の防災教育の活動を外部へ発信

<p>事業内容④目標 (提供者側)</p>	<p>南海トラフによる被害が予想される高知県に赴き、東日本大震災を経験した立場から、現地の小中学校の避難訓練等を検証し、指導助言を行う。また、阪神淡路大震災で大きな被害を被った地域の復興状況等に触れる研修機会を設け、今後の発信の仕方等について学ぶ。</p>	
<p>事業内容④目標 (参加者側)</p>	<p>1月と2月に四国と関西へ教育視察を実施し、東日本大震災を経験した教員・地域人材という立場から、現地の小中学校の避難訓練などを視察し、指導助言を行う。それにより、現地の児童生徒や教員の防災意識の向上を図る。</p>	
<p>事業内容④ 実施内容 A (実施日:1/28~30)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 高知県香南市に教育視察を実施。東日本大震災を経験した教員・地域人材という立場から、現地の小中学校の避難訓練などを視察し、指導助言を行った。本校教員による出前授業や講演会も実施した。</p> <p>■成果 東日本大震災を経験している教員や地域人材という視点から、指導や助言を行うことは大きな意義があった。香南市の防災意識の向上に大いに貢献できた。</p>	
<p>事業内容④ 実施内容 B (実施日:3/5~6)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 大阪府池田市に教育視察を実施。阪神淡路大震災で大きな被害を被った地域の復興状況等に触れる研修機会を設け、今後の発信の仕方等について学んだ。地域人材も同行し、人と防災未来センターを訪問するなど学校と地域の防災意識の向上及び連携を図る。</p> <p>■成果(提供者) 本事業が継続した取り組みになるよう、学校安全推進センターフォーラムに参加し、推進員養成セミナーを受講した。また、地域の方々と来年度の防災・安全教育の向上につなげていけるような取り組みにしていく。</p>	
<p>事業内容④ 実施内容 C (実施日:2/5~6)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 福島県双葉町、いわき市に教育視察を実施。東日本大震災で大きな被害を被った地域の復興状況等に触れる研修機会を設け、今後の発信の仕方等について学ぶ。本視察では、東松島市が女川原子力発電所の予想被災地域であることを鑑み、原子力事故への対応を中心に視察を行う。地域人材も同行し、学校と地域の防災意識の向上及び連携を図る。</p> <p>■成果(提供者) 地震・津波への対応だけでなく、本市は原子力への対応力も高めていかなければならない。本視察を教職員や地域住民に伝えることで原子力事故への対応力を高めることが期待される。</p>	

<p>事業内容④を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 特になし</p>
<p>事業内容④を実施する上で工夫した点</p>	<p>いずれも学校教職員だけでなく、地域防災のかなめとなる人材を巻き込みながら実施したことで事業の提供者にとっても参加者にとってもより深い学びにつながった。また、香南市とはオンラインで打ち合わせを重ねることでお互いのニーズを共有し、有意義な研修を実施することができた。</p>
<p>事業内容④ 残課題等</p>	<p>これからの研修視察に向け準備を進めていく。地域の協力者たちとの連絡調整を行っていく。</p>